

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 馨 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東横2-18-13 tel. 052-601-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

19 11

名古屋園芸



「菊譜」 鳥山啓著 明治初年頃の成立か 稿本

右: 'ヨロコブ' 本種は江戸菊の外弁の特徴である匙弁(さじべん)一〜二重花
左: 'カガリビ' 本種は江戸菊の中間の花弁の形質を顯わす 平弁上半分が反転(接折 つまおれ) こうした二品種が交雑することにより「江戸菊」が成立したとも考えられる。ご参考までに 亮軒記

information

◇TV出演情報 小笠原 左衛門尉亮軒・小笠原悠
NHK 趣味の園芸 (Eテレ)
大江戸花競べ十二選「花芸」編まる!キク」
*放送: 11月24日(日) 午前8:30~8:55
*再放送: 11月26日(火) 午前10:25~10:50
11月28日(木) 午後0:30~0:55



名古屋園芸の冬ギフト

information

ガーデンシクラメンも満載です



鉢花のシクラメンも豪華で素敵ですが屋外でも飾ることのできるガーデンシクラメンも11月は大量入荷します。
今年は何年よりさらに豊富に品種を集めました。長野県軽井沢町の生産者さんから素晴らしいガーデンシクラメンが届きます。八重咲、スカート咲き、フリンジ咲きなど品種はとて増えました。
11月は週2回入荷があり、その週ごとに異なる品種がやってきます。11月の前半と後半とでは品種がガラリと変わることがありますので、こまめに苗売り場をチェックしてくださいね。

花の歴史は古く、中国から日本へ伝来した。江戸時代には、菊の栽培が盛んになり、多くの品種が開花された。この「菊譜」は、江戸時代初期に書かれた菊の図鑑である。...

菊の栽培は、古くから行われてきた。江戸時代には、菊の栽培が盛んになり、多くの品種が開花された。この「菊譜」は、江戸時代初期に書かれた菊の図鑑である。...

菊の栽培は、古くから行われてきた。江戸時代には、菊の栽培が盛んになり、多くの品種が開花された。この「菊譜」は、江戸時代初期に書かれた菊の図鑑である。...

花の博物館 第286回

菊花俗談

松籟軒南甫 宝暦年(十三年)著
写本一冊 関不崩旧蔵本
小笠原左衛門尉亮軒

本書は「日本博物誌総合年表」によれば、菊の種筆的小編とあり、いつか読もうと思いつきながら読んでいた。今回NHK趣味の園芸で「大江戸花競べ十二選」の11月「江戸菊」を担当させていただくにあたり、架蔵の菊に関する資料を再見した。結果「菊花俗談」は江戸菊の成立に係る文書の一書であり、今回紹介する。
内容は、著者の漢文序が一丁半あり、武蔵城西青山陸士 松籟軒南甫 自題とある。続いて本文は和文で十丁、最終丁ウラに、栗松館の書入れがある。何れ全文を翻刻したいが今回は要約し、中菊成立の概要を記すにとどめる。

元禄以前から菊の栽培は盛んになったが、その頃の花は曲尺(かねじゃく)にて一寸から二寸三寸であった。宝永の頃より品種名をつけて販売者があり、正徳の末、高根、小倉山などの品種が有名になった。享保に至り、丁字咲、毛咲、管咲の類が現れる。享保十年紀州和歌山より珍花が現れた。この花は諸国を尋ねても見当たらない。異形の花でありヨレ、クルイ、巻込みなどの花を愛玩するなど聞いたことがない。こうした珍花も江戸へ下り、寛延二年(一七四九)九月、市ヶ谷八幡社内で、実生新花凡そ二百余種を取り集めた。これが実生会の最初である。寛延四年からは実生花に位をつけたが、この珍花は紀州菊と呼ばれていた。

江戸菊は、寛延、宝暦のころ紀州和歌山で紀州菊として原形が現れ、江戸で文政以降「中菊」と名付けられ大流行し、明治後期「正菊」とし、さらに昭和七年(一九三二)丹羽鼎三により「江戸菊」と称せられ今日に至るまでと考へる。



世界ふれあい 花歩き

ニュージーランド編

ガーデン・シティー クライストチャーチ

小笠原 馨



木性シダ シルバー・ファーン

クライストチャーチはニュージーランドの南島東岸にあり、「ガーデン・シティー」と呼ばれ街全体が庭園のような美しい街です。東日本大震災と同じ2011年に発生したカンタベリー大震災で大きな被害を受けました。塔が崩壊した大聖堂は今なお半壊の状態、街のなかにも大震災の爪痕が残っており復興半ばでした。

クライストチャーチ植物園 Christchurch Botanic Gardens

設立は150年以上前の1863年で30haなので、歩いて回るちょうどよい広さです。カンタベリー博物館のすぐ横の正面入り口から入るときれいな花壇が迎えてくれます。ピジョンナシコ、プリムラ、チューリップもきれいに咲いています。ただ日本では冬から早春に定番のパンジー、ビオラはごく少数派で、街を歩いてもあまり見ることはありませんでした。



愛知県にも自生するシデコブシが園内

緯度が札幌と同じくらいになり、私が訪れた9月下旬は早春の様相でした。今年は、サクラは9月上旬から咲き始め、ちょうど満開でした。日本ではサクラの花は咲き始めてから2週間ほどで散ってしまいますが、クライストチャーチのサクラは1か月くらい咲いているようです。理由は気温にあります。9月下旬の気温は、最高15℃前後、最低は氷点下にならない程度です。日本の気温より昼夜とも数℃以上低いので花もちがよくなるからです。

夏でも平均最高気温は25℃、冬も平均最低気温は氷点下を下回ることはない気候です。夏の猛暑がないと、日本の花木も日本では見られないパフォーマンスを見せてくれます。



ツバキは民家の庭でもよく見かけ大人気



シヤクナゲも満開

園内を歩くと日本の花木が大活躍です。サクラばかりでなく、ツバキ、シヤクナゲ、ツツジ、シデコブシが咲き誇り、モミジの新芽が開き始め、樹下にアジサイの芽が伸び始めていました。フジも咲き始めていて、北海道の春のように一気に春の花が咲き始めていました。海外で日本の花木が活躍している姿を見ると「がんばれよ」と声をかけたくなります。



ハグレー公園北側の桜並木

同題の植物にエールを送るとニュージーランドの原産植物のエリアに入ります。オーストラリア同様に特異的な植物が多くみられます。初対面の植物に挨拶をしつつ、いよいよ対面、ニュージーランド原産の木性シダ、シルバー・ファーンです。ニュージーランドの国章に使われ、ラグビーチーム、オールブラックスのロゴもこのシダをデザインしたものです。文字どおり葉柄と葉は銀色です。ニュージーランドは木性シダの宝庫で数多く自生しています。



植物園入り口のチューリップ花壇

植物園を囲むようにエイボン川が流れています。船底が平らな船でパンティング(舟遊び)をする人々を見ながら対岸に渡るとラッパスイセンが花盛りです。スイセンの花は北半球では南向きに咲きますが、南半球では北向きに咲きます。園芸屋はこういう現象を見て面白いのですが、写真では南北がわからないので、まったく説得力がないのが残念です。



日本とは反対の北向きに咲くスイセン



日本では見かけないサクラの高接ぎ木した樹形